

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

ハマキョウレックス

9037 東証プライム市場

企業情報はこちら >>>

2022 年 6 月 13 日 (月)

執筆：客員アナリスト

水野文也

FISCO Ltd. Analyst **Fumiya Mizuno**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

ハマキョウレックス
9037 東証プライム市場

2022 年 6 月 13 日 (月)
<https://www.hamakyorex.co.jp/ir/>

事業概要

2022 年 3 月期は、14 社の物流を新規受託。 3PL のニーズが年々高まり成長途上に

ハマキョウレックス <9037> は、独立系の物流一括受託（3PL）大手である。営業収益構成比は物流センター事業約 60% と貨物自動車運送事業約 40% の比率となっており、これまで近鉄物流（株）（現 近物レックス（株））等を買収して事業拡充に努めてきた。3PL（3rd Party Logistics）とは、顧客の物流全般を包括的に請け負い物流費圧縮や業務効率化を実現する、言わば物流業務のアウトソーシングである。同社はこの分野において豊富な実績がある。

同社は 1971 年静岡県浜松市で設立以来、急速な成長を遂げ、現在は全国、海外（中国等）に拠点がある。業界では物流を含めた総合的な事業体制見直しが行進するなか、3PL のニーズは年々高まりつつある状況だ。2022 年 3 月期末時点で同社の物流センター数は、130 センターとなった。既に受注済みの案件以外にも、ビジネスとして進めている新規案件が多数存在することから、成長途上にある印象が強い。なお同社は、2022 年 3 月期に九州地区では初となる宮崎県内で自社物流センターが竣工した。今後も顧客の要望に合わせて、センターを稼働させていく。

業績動向

過去最高値を更新中、17 期連続の増配目指す

1. 2022 年 3 月期連結決算

2022 年 3 月期連結決算は、営業収益が前期比 5.2% 増の 125,094 百万円、営業利益が同 5.2% 増の 11,114 百万円、経常利益が同 9.6% 増の 11,957 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 10.7% 増の 7,117 百万円となった。着実に増益を確保し、利益面では前期に続いて過去最高を更新した。

前期は営業収益が減少していたが、当期に持ち直した格好となった。その背景にあるのは、前期は貨物自動車運送事業が新型コロナウイルス感染症の拡大（以下、コロナ禍）の影響を受けていたことである。当期においてはモノの動きが回復するとともに、緩やかながらも回復に向かったことが大きい。一方、物流センター事業は、14 社の物流を新規受託したことにより好調を持続した。

ハマキョウレックス

9037 東証プライム市場

2022 年 6 月 13 日 (月)

<https://www.hamakyorex.co.jp/ir/>

業績動向

利益面では、物流センター事業が物流センター運営の充実及び新規に受託したセンターが順次業績に寄与した結果、各利益は増益となった。ただ、貨物自動車運送事業は、荷動きは活発化し始めたものの、昨今の原油急騰による燃料価格上昇の影響を受けた。物流センター事業のセグメント利益は前期比 13.0% 増の 9,310 百万円と増益となった。同社の物流センター数は、前期末の 128 センターから 2022 年 3 月期末には 130 センターへ拡充した。そのスケールメリットを享受し、今後もさらなる伸びが見込まれている。一方、貨物自動車運送事業のセグメント利益は同 22.3% 減の 1,798 百万円と減益を余儀なくされた。コロナ禍の影響は薄れてきた印象がある一方、燃料価格の上昇が利益を圧迫している。同社の場合、リッター当たり 1 円の変動で、約 35 百万円の利益変動要因になると言う。

財務面では、有利子負債が前期の 22,800 百万円から 22,697 百万円と小幅ながら減少した。引き続き、子会社の近物レックスの借入れ返済を進めていく。2022 年 3 月期末時点の自己資本比率は 52.7% と前期の 51.1% から改善し、財務体質は良好と言える。

2022 年 3 月期の業績概要

(単位：百万円)

	20/3 期		21/3 期		22/3 期		23/3 期	
	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	予想	前期比
営業収益	122,471	5.7%	118,876	-2.9%	125,094	5.2%	132,000	5.5%
営業利益	10,190	2.8%	10,563	3.7%	11,114	5.2%	11,900	7.1%
経常利益	10,618	2.5%	10,913	2.8%	11,957	9.6%	12,400	3.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,233	5.6%	6,427	3.1%	7,117	10.7%	7,300	2.6%
EPS (円)	328.01		341.69		378.84		388.56	

出所：決算短信よりフィスコ作成

2. 2023 年 3 月期業績予想

2023 年 3 月通期連結の業績予想は、営業収益が 132,000 百万円(前期比 5.5% 増)、営業利益が 11,900 百万円(同 7.1% 増)、経常利益が 12,400 百万円 (同 3.7% 増)、親会社株主に帰属する当期純利益が 7,300 百万円 (同 2.6% 増) と増収増益を見込む。2022 年 3 月期に続いて過去最高益を更新する見通しとなる。注目すべきは配当金で、2022 年 3 月期は 10 円増配の年間 85 円としたが、2023 年 3 月期は年間 90 円と 17 期連続となる増配を見込む。

物流センター事業については、新規に 15 センターの獲得を目指す。2023 年 3 月期もスケールメリットを享受することになりそうだ。収益環境もコロナ禍が一時に比べて落ち着いてきたことで、環境は好転してきたと言っていだろう。一方の貨物自動車運送事業は、コロナ禍の影響は薄れてきたが、引き続き原油価格急騰に伴う軽油価格の上昇が収益を圧迫する要因として懸念材料となる。

ハマキョウレックス
9037 東証プライム市場

2022 年 6 月 13 日 (月)
<https://www.hamakyorex.co.jp/ir/>

■ 中期経営計画

2024 年 3 月期に営業収益 135,000 百万円、 営業利益 12,100 百万円を目指す

同社は 2021 年 5 月 11 日、2024 年 3 月期を最終年度とする中期経営計画をスタートさせた。計画の目標値は営業収益 135,000 百万円、営業利益 12,100 百万円、経常利益 12,400 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 7,200 百万円、1 株当たり当期純利益 (EPS) 382.76 円、営業収益経常利益率 9.2% を掲げた。設備投資は 9,000 百万円とし、ROE10% 以上を目指すとしている。

基本的な戦略は、3PL 事業を軸とした展開となる。主な施策として物流センター事業は、人手不足の解消及びさらなる生産性向上のため、物流ロボットの導入により入出荷作業の一部を省人化するほか、カメラ認証技術、自動搬送ロボットの活用などを図る。さらに、ラストワンマイルのプラットフォーム構築を進め EC 物流を拡大する考えだ。e コマースは急速に拡大しており、今後の期待が大きい。貨物自動車運送事業では、近物レックスのターミナルを活用し、軽貨物車両を利用した宅配サービスの拡充を進めるほか、労働環境改善のための運賃是正を今後も推進していく。新規顧客獲得に向けた取り組みとしては、物流センター事業で目標年間受託件数を 15 社とする。海外戦略としては、国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図っていく。さらに ESG 経営にも積極的に取り組み、物流センター事業では太陽光発電システムを導入し、貨物自動車運送事業では CO₂ 排出量の少ない車両の導入などを進めていく。

■ 株主還元

2023 年 3 月期の配当金は 17 期連続増配を見込む。 中長期的に配当性向 30% を目指す

株主還元に関しては、2022 年 3 月期は 10 円増配し年 85 円の配当としたが、2023 年 3 月期も増配し、年 90 円の配当を見込む。これが実現すれば、17 期連続の増配となる。配当性向は計画どおりなら 23.2% に向上する。配当性向については、中期経営計画には「中長期的には配当性向 30% を目指します」と明記している。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp